



H29 駒橋 冴季さん

特定非営利活動法人 難民を助ける会(AAR Japan)
海外支援事業部 ケニア事務所駐在員



● 現在の職業について

私は現在日本発の国際 NGO に所属し、ケニアのカクマ難民キャンプに駐在員として派遣されています。私の所属する NGO ではこれまで中等教育支援、コミュニティ開発プロジェクト等をカクマ難民キャンプで実施してきており、最近では新しく ICT トレーニングの事業を始めるところです。駐在員としての業務は、プロジェクト策定のための調査・情報収集、申請書作成、事業計画策定、職員採用・雇用管理、事業進捗管理、会計業務など多岐にわたります。日本人駐在員が 2 人しかいないため、あらゆる業務をすべてこなす必要があり、それが苦勞でもあり面白い部分でもあります。また私はなるべく受益者の方々の近くで働きたかったので、いつでも学校やコミュニティを訪問でき、難民や受け入れ地域のケニア人の方々の声が直接聞ける今の環境はとても理想的で毎日が充実しています。

● 留学経験について

もともと海外に興味があり、大学生のころに様々な国を訪れる中で、途上国の抱える社会課題の深刻さと共に、その中でも力強く生きる子どもたちや若者にとっても感銘を受けました。将来彼らと一緒に働いてみたいという思いが芽生え、社会人経験を積んだ後に青年海外協力隊に参加しました。そこで日本の中学・高校にあたるレベルの学校でコンピュータ教員として働き、途上国の若者にとっての教育の重要性を痛感しました。同時に自分の経験や知識の少なさから効果的な活動を展開できなかった反省もあり、教育開発についてより専門的に学びたいと考えイギリスの大学院への留学を決めました。留学期間は想像通りとても大変でした。とにかく課題が多く、当たり前ですが全て英語なので、抽象的な話や理論などは理解するのに苦勞しました。授業でもネイティブの学生の多いグループに入ると話についていくのがやっとでした。それでも少しずつ知識が増えていくにつれて理解が深まっていき、さらに現場での経験があったので次第に議論にも積極的に参加できるようになりました。論文ばかり読んで現場が見えてこないフラストレーションもありましたが、修論の調査でウガンダを訪れた際には、現場の人々の顔が見えて声が直接聞こえたことで、それまでの調査や学びが現実世界に繋がった感じがしました。もちろん気分転換も重要で、様々な国籍の友人と美味しいものを食べに行ったり、イギリスではよくあるピクニックをしたりして、リフレッシュするようにしていました。

● 留学経験はどのように社会の中で役立っているか

一番の収穫は何よりも自信と度胸がついたことだと思います。行ったことも無い、言葉も違う、知り合いもいない、そんな国でゼロから生活を立ち上げて学校に通い卒業するためには、本当にたくさんのことを調べて考えて決めて行動する必要があります。それをやりきったという経験は大きな自信に繋がっていると思います。言語に関しても、まだまだ勉強し続ける必要がありますが、とにかく伝えることが大事だということを手伝ったので、今では間違えることを恐れずに誰とでも、多くの人の前でも、自信を持って話せるようになりました。また多彩なバックグラウンドを持つ人々と繋がることができ、自分とは異なる考え方や価値観に触れることができたことも、視野を広げるうえで重要だったと思います。これらは全て今のケニアでの仕事や生活にとっても役立っていると実感しています。ただし専門知識に関しては、もちろん増えたとは思いますが、仕事をしているとまだまだ足りないなと感じます。今後も学んだことの振り返りや、実際の現場の状況に当てはめて考えていく必要があると思います。

● これから留学する後輩へメッセージ

私自身、留学で苦勞した点や反省も多いので偉そうなことは言えませんが、なぜ留学するのか、何のために留学するのかをもう一度よく考えてみた方が良いと思います。立ち返るべき原点とゴールを見失わないようにすれば、勉強が忙しかったりうまく進まなくて辛くなったりしたときの支えになると思います。個人的には、「留学は絶対に楽しいからみんなした方が良い！」とは思いません。本当に目的次第だと思いますし、向き不向きもあると思います。留学は目的ではなく手段のはずですが、ただ漠然と「留学したい」ということが目的になっている人は意外と多い気がします。そんな方は、「なんで留学したいと思うのか」を突き詰めて考えてみるのが良いかと思います。それと学校とコース選びはなるべく卒業生の方の話を直接聞くのが良いと思います。学校によってカリキュラムも違えば生徒数も違いますし、それによっては少人数で丁寧な指導を受けられる学校と、大人数のためにかなり独立して勉強する必要がある学校などが出てきます。事前の情報収集は入念に行われるのが良いと思います。